

第5回聴覚障害者医療研究集会 抄録集



2018年12月9日(日)
広島市安芸区総合福祉センター 大会議室

主 催：聴障・医ネット（聴覚障害者の医療に関心をもつ医療関係者のネットワーク）
聴覚障害をもつ医療従事者の会





第5回聴覚障害者医療研究集会 開催要項

【日時】2018年12月9日（日）10時～15時（9時30分受付開始）

【会場】広島市安芸区総合福祉センター 大会議室（広島市安芸区船越南三丁目2-16）
JR海田市（かいたいち）駅より広島方面へ約400メートル（徒歩5分）
バス船越町・安芸区役所前バス停下車 約80メートル（徒歩1分）

【内容】

10:00～11:40 特別講演
13:00～14:50 一般演題発表、質疑応答
15:00 終了

【参加費】

会員 3,000円 非会員 4,000円（手話通訳とパソコン要約筆記がつきます）。

【趣旨】

聴障・医ネットは、聴覚障害者の医療問題を考える医療関係者たちの全国的なネットワーク組織です。1996年の設立以降、聴覚障害者の医療に関心を持つ医療関係者間の情報交換、並びに交流を行うこと、ならびに災害等発生時において聴覚障害者およびその関係者に対する医療支援の協力ができるようにすることを目的に、関連団体と連携して活動してきました。

このたび、聴障・医ネットは、聴覚障害をもつ医療従事者の会との共催で、第5回目となる表記集会を企画しました。特別講演は、手話ができる歯科医師で、わが国の障害者歯科領域の第一人者でもある村上旬平氏にお願いしました。一般演題発表は3本の応募があり、いずれも興味深い実践報告です。

日ごろ聴覚障害者や手話通訳者とともに活動されている医療者の方々はもちろん、聴覚障害者への医療支援・情報提供について少しでも関心をお持ちの医療関係者の方々、聴覚障害者・手話通訳者の方々のご参加をお待ちしています。

＜お願い＞

昼食は、周辺の飲食店を利用するか、弁当持参でお願いします（会場内で飲食可、近くにコンビニあり）。

＜企画・運営＞

聴障・医ネット、聴覚障害をもつ医療従事者の会

＜連絡先＞

聴障・医ネット 事務局担当 高田 智子

事務局：〒263-0016 千葉市稲毛区天台3-11-1 高田方

FAX (043) 251-1975 E-mail: deaf.mednet@gmail.com

<http://homepage3.nifty.com/deaf-med-net/>



10:00

開会 挨拶 聴障・医ネット 代表 平野 浩二

10:10~11:40

特別講演

座長 平野 浩二

「すべての人の口の健康を実現するには? -障害者歯科の挑戦-」

講師: 村上 旬平 氏 (歯科医師、大阪大学歯学部附属病院・障害者歯科治療部
外来医長、講師)

11:40~12:00 質疑応答

~休憩~

13:00

聴障・医ネットからの報告

13:10~14:10

演題発表

座長 境 銀子

1. 薬剤師を目指す学生に対する聴覚障害に関する教育の取り組み
○俵口奈穂美¹, 大光正男², 芦原 美咲², 大津屋 美咲² 窪田敏夫²
(1 北九州市立医療センター、2 第一薬科大学地域医療薬学センター)
2. 聴覚障害者バリアフリークリニックをめざして
○平野 浩二 (ミルディス小児科耳鼻科)

~休憩~

14:20~14:50

座長 小林 裕太

3. ろう者に糖尿病のことを理解していただくためのビデオ作り
○片倉和彦 (双葉会診療所)

14:50 まとめ

15:00 終了

【特別講演】

「すべての人の口の健康を実現するには？-障害者歯科の挑戦-」

講師：村上旬平 氏（大阪大学歯学部附属病院・障害者歯科治療部 外来医長、講師）

【プロフィール】

1998年 大阪大学 歯学部卒業
2002年 大阪大学 歯学研究科修了 博士（歯学）
2002年 大阪大学歯学部附属病院 医員
2003年 大阪大学歯学部附属病院 助手
2007年 同上 助教
2008年～大阪大学歯学部附属病院障害者歯科治療部・外来医長
2016年～大阪大学歯学部附属病院 講師
2018年9月～10月 デンマーク・コペンハーゲン大学へ客員研究員として留学

【研究内容・専門分野】

- ・視覚障害者および聴覚障害者への歯科的情報バリアフリーに関する研究
- ・発達障害児者の歯科医療受診支援に関する研究
- ・酸化チタンのバイオフィルムに与える影響についての研究
- ・ダウン症候群における歯周疾患早期発症と進行に関する研究
- ・障害当事者および障害のある子どもをもつ親の心的ケアに関する研究

【講演要旨】

障害者歯科は、身体障害や知的障害などがあり、地域の歯医者さんでは診てもらいにくい人たちの診察や治療をします。障害に関する知識や意思疎通の方法などを学んだ歯科医師らが、患者さんや家族、介助者らとも相談しながら治療を行っています。患者さんのなかに、口腔ケアが不十分なため、歯や歯ぐきの病気を抱えた人がいます。本人や周囲の人の情報不足や余裕のなさなどが、その一因と考えられます。口の中は、障害のある人の歯科医療の問題や生活、社会の課題を映し出しているのです。

すべての人に口の健康を提供するためにどのような課題があるのか？そして何をすべきか？大阪大学障害者歯科では、個々の患者さんに配慮した安心・安全な治療と、口の健康維持を目指した、臨床や教育、研究に取り組んでいます。また情報・コミュニケーション保障や家族支援などにも挑戦しています。本講演では障害者歯科における、聴覚障害やさまざまな障害とともに生きる人たちへの、対応と課題を紹介したいと思います。参加者のみなさんと、聴覚障害者医療の新たな地平を拓くような議論ができれば幸いです。

薬剤師を目指す学生に対する聴覚障害に関する教育の取り組み

○俵口奈穂美^{*1} 大光正男², 芦原 美咲², 大津屋 美咲² 窪田敏夫²
北九州市立医療センター¹、第一薬科大学地域医療薬学センター²

1. 目的

薬学部の学生は、5年次に病院と薬局で延べ5カ月の実務実習を行う。実務実習に行く前には、大学において患者との基本的なコミュニケーションに関する技能・態度を学ぶ。しかし、実務実習中や卒業後に薬剤師として聴覚障がい者をはじめとした障がい者に対する服薬指導を実施する可能性があるが、薬学生が聴覚障害について体系的に学ぶ機会はほとんどない。

薬剤師や実務実習生が聴覚障がい者に対して服薬指導をする際、障害者差別解消法による合理的配慮を行い、適切な情報提供を行う必要がある。しかし、聴覚障害は外見からは分かりにくい障害であり、合理的配慮が具体的にどのようなものであるか実感しにくい。そのため、聴覚障害について理解し、聴覚障がい者とのコミュニケーション方法を知ることが重要である。そこで、聴覚障がい者への情報提供として良く使用される読話について難聴疑似体験を行い、薬学生が読話の特徴と読話での聴覚障がい者への配慮方法を習得できるか評価を行った。

2. 方法

平成30年4月に第一薬科大学5年生151名を対象とし、読話での読み取りの程度・配慮の有無による読み取りの差を体験する難聴疑似体験を行った。読話での読み取りの程度の体験では、講師があらかじめ記録した映像を音声オフにして再生したものを学生が見て、話した内容を読み取った。配慮の有無による読話での読み取りの差の体験では、聴者役と難聴役1対1で、聴者役から難聴役に春休みに行ったことを5分間伝えた。難聴役はスマホで騒音をイヤホンで聞き、聞きとれない状態で読話を体験した。難聴役は聞き取った内容を記録し、聴者役は内容が伝わったどうか判断した。1回目（配慮なし）と2回目（配慮あり）の読話による伝わり

の差を比較した。また、疑似体験前後に読話、読話の特徴、読話での対応の注意点について理解しているかの自己評価と難聴疑似体験の有用性を評価した。

3. 結果

単語のみの読話によって単語の読み取りができたのは全体の30%未満であった。同じ単語を文章で読話すると、68.2%が読み取ることが出来た。配慮の有無による読話による読み取りの差については、1回目配慮なしでは難聴役の8割に伝わらなかったが、2回目配慮ありでは、1回目で伝わらなかった難聴役の7割に伝えることが出来た。

読話の理解度は、読話について知っている(11.3%から92.7%)、読話は前後の語句や文章で類推する(13.2%から93.4%)、読話での対応の注意点が分かる(5.3%から97.4%)のいずれも体験後に大きく上昇した。疑似体験学習の有用性については、聴覚障害を知る必要性を感じた(99.3%)、聴覚障がい者とのコミュニケーションの大変さを感じた(100%)、配慮でコミュニケーションがスムーズになることが分かった(98%)、医療機関での合理的配慮の必要性を感じた(100%)、服薬指導でのコミュニケーション方法の理解に有益だった(99.3%)、聴覚障がい者に接する際の考え方や態度に前向きな影響を与えた(100%)であった。

4. 考察

類推できるように単語を付け加える、ゆっくり口を大きく開けて話すなど読話で配慮をすることの重要性を経験し、難聴疑似体験によって読話の難しさ、読話の特徴、読話での配慮方法を理解することができた。実務実習前の5年生に対する疑似体験は、実務実習において服薬指導の機会があった際、適切な合理的配慮の実施につながることを期待できる。

聴覚障害者バリアフリークリニックをめざして

○平野 浩二 ミルデイス小児科耳鼻科

はじめに

長年手話を勉強してきた経験をいかし、聴覚障害者が気楽に受診できるクリニックをめざして、平成16年東京で耳鼻咽喉科クリニックを開業した。受付に手話通訳士を採用し、診察の場面では医師である自分自身が手話を使う。開業から15年がすぎ、当院での聴覚障害者診療について報告したい。

聴覚障害者受診数

聴覚障害者（主に6級以上のレベルの人のみ）と、健聴の子供で親が聴覚障害者の合計数は、15年間で585人に達した。一人の人が何回も受診しているケースも多く、のべ人数はもっと多くなるが、一日の受診は1~2人ぐらいで、全患者数の1~2%ぐらいである。585人の内訳は、ろう者343、難聴者159、中途失聴者31、健聴の子供52人である。コミュニケーション手段は、手話362、補聴器120、筆談14、大声38であった。受診者年齢構成は、各年代ほぼ均一である。

初診時の受診目的

診察444、診断書希望111、予防接種5、健診25人。診断書は、身体障害者、年金、補聴器などが多い。健診が多いのは、ろうあ児の施設金町学園の園医を請け負っており、その子供たちが多いためである。

診察時の病名

耳鼻咽喉科だけに、アレルギー性鼻炎、風邪、耳垢、難聴などの疾患が多い。喘息患者が多いのも特徴の一つである。比較的軽微な病気の受診が多い。

受診患者の通院範囲

東京都が516人で大多数を占める。その他の関東圏68人、それ以外1人。クリニック周辺の住んでいる人は何度も受診しているが、遠方からの受診は極めて少ない。

特徴的な患者

人工内耳を入れている子供の患者が11人、視力障害を併せ持つ人が3人、知的障害・精神障害を併せ持つ人が12人、外国出身のろう者が10人であった。結婚して日本に定住しているろう者も多い。いずれも日本手話に堪能であるため、手話でのコミュニケーションに問題はなかった。

クリニックの工夫

自分以外の医師が診察するときには、受付スタッフに手話通訳に入ってもらおうことがある。予約システムは当初よりネット予約にこだわり、聞こえる人も聞こえない人も、パソコンやスマホから予約できる。緊急連絡用に携帯電話番号はもちろん、メールアドレスも公開している。通常の問い合わせは、クリニックへファックスでもらう。診察室への呼び入れは、スタッフが直接表で声をかけている。

ろう者に糖尿病のことを理解していただくためのビデオ作り

片倉和彦(双葉会診療所)

【はじめに】

普段、診察室でろう者と話していると、病気がことがうまく伝わっていないなど思うことがある。とくに、インターネットの検索などに慣れていない中高年のろう者の場合、病気の説明にうんうんうなづいていても実は伝わっていないということが少なからずある。その中でもたとえば、糖尿病という病気は、病気の概念、治療への取り組みが伝わりにくい。その背景を考えながら、糖尿病を知るビデオを聴力障害者情報文化センターと相談しながら作った。その経過を報告する。

【糖尿病はなぜ理解しにくいのか】

ろう者の言葉である手話を用いても、糖尿病の概念はろう者に伝わりにくい。その理由を考察した。

- 1、ろう者は生活の中の雑談で自然に入ってくる情報(耳学問)が少ないため、病気の情報は意識しないとなかなか得ることができない。糖尿病は知らず知らずに症状が進行する病気なので意識しにくい。
- 2、糖尿病という言葉への誤解。糖「尿」病、という字があり、手話でも、「糖」「尿」「病」とあらわしている。それゆえ、糖尿病がおしっこの病気と思われている。
- 3、「糖」という概念の誤解。糖の制限＝甘いものの制限とってしまう。
- 4、糖尿病の基本的説明が必要である。そもそも血糖とは何か、高血糖で血管壁が影響されること、細動脈が壊れるとどうなるか、などを伝えずに、2型糖尿病や網膜症や透析の話だけをして、ろう者に糖尿病が見えてこない
- 5、ろう者は白黒はっきりさせることを好む傾向にある。しかし、糖尿病の治療はすばっと治るわけではなく、悪くない状態を保っていくことが重要である、ということも伝える必要がある。

【ビデオ作り】

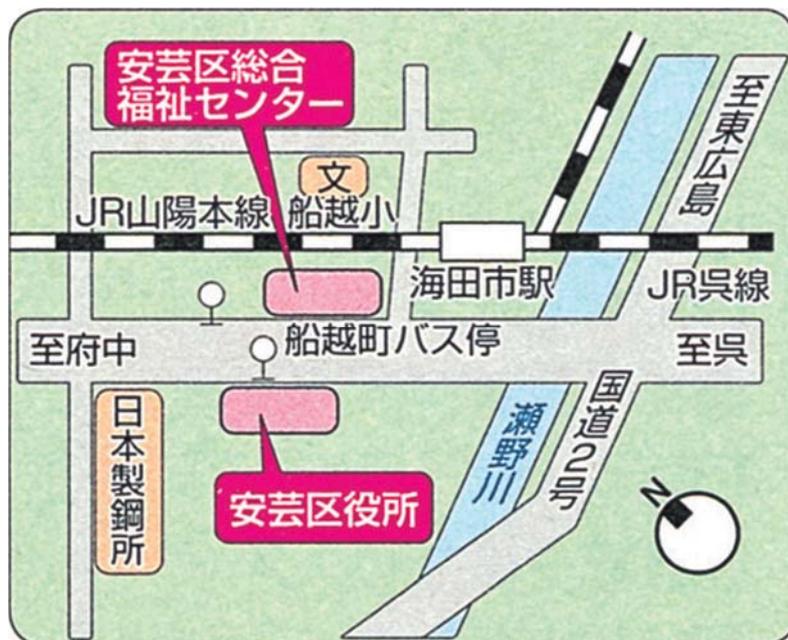
これらの状況をもとに、DVD制作にあたってどういう糖尿病情報が大切かを考えた。情報伝達手段は手話と字幕と音との併用とした。

ストーリーは以下のようなものにした。「糖というのは炭水化物のことであり、人間の体にとって糖は生きていくため、頭を働かせるために大事なものである。しかし、糖をたくさんいっぺんに取りすぎることが続くと血液中に血糖があふれ出す。するとバナナの甘さでバナナの皮が黒くなるのと同じように、細動脈のタンパク質の壁が壊れて、腎臓や目やその他に障害を起こす。それを防ぐためには食べる順番の工夫、ゆっくり食べる、食べ過ぎない、運動で代謝をよくすることが重要だ」

このことを、片倉と管理栄養士とが具体的に話していった。2型糖尿病などの言葉、治療薬の分類などは今回は思いきって省いた。糖尿病の理解と食事の工夫と受診の勧めとに話を絞った。その後、情報文化センターでの生活支援の実際の映像も伝えられるようにした。

そしてビデオができあがり、全国各地の聴覚障害者情報提供施設で貸し出せるようにした。

【会場MAP】



第5回聴覚障害者医療研究集会抄録集

発行 2018年12月

編集 聴障・医ネット 代表幹事 平野 浩二
〒263-0016 千葉県稲毛区天台3-11-1 高田方
FAX: 043-251-1975
E-mail: deaf.mednet@gmail.com

